



令和 5 年 4 月 25 日

記者説明会（5 月 1 日（月）11 時開始・きてみんさいラボ）のご案内

オオサンショウウオ保全対策プロジェクト研究センターを
設立し、総合的な保全対策に取り組みます

情報提供

世界最大級の両生類であるオオサンショウウオは、国の指定する特別天然記念物であり、中国地方が分布の中心です。東広島市は、過去 12 年間の調査により、本種の個体群が豊富で、保全上極めて重要な自然の繁殖巣穴を保有する繁殖群であることがわかってきました。

しかしながら、孵化後の幼生が生残出来ていない環境であること、堰堤により個体群が分断され、健全な繁殖が制限されていること、近年の頻発する豪雨により下流へ流出していることなど次々と問題点が明らかとなってきました。

更に、2022 年には広島市において、外来種であるチュウゴクオオサンショウウオとの交雑種を多数発見しました。交雑種の分布は関西を中心に急拡大が続いており、最初に確認された京都市の鴨川水系では移入から約 30～40 年で約 98%のオオサンショウウオが交雑種に置き換わったことが報告されているなど、国産純粋種の保全が火急の課題となっています。

このように国の特別天然記念物である本種は危機的な状況にあり、その保全対策の検討と早急な実施が求められています。

そこで、この度、野外調査技術と DNA 鑑定、環境 DNA 等の技術、教育普及実績を持つ学内外の研究者が参集し、調査研究の全国展開を目指して本プロジェクト研究センターを 5 月 1 日に設立します。

ついては、下記のとおり記者説明会を開催し、ご説明いたします。

ご多忙とは存じますが、是非ご参加いただきたく、ご案内申し上げます。

記

日 時：令和 5 年 5 月 1 日（月）11 時～12 時
（10 時 30 分から受付）

場 所：広島大学きてみんさいラボ

（広島市南区松原町 2-62/広島駅南口 広島 JP ビル 2 階）

出席者：清水則雄 総合博物館准教授（動物生態学）

三浦郁夫 両生類研究センター准教授（基礎生物学、進化遺伝学）

桑原一司 元広島市安佐動物公園副園長/

日本オオサンショウウオの会 前会長（博士（学術））

田口勇輝 日本オオサンショウウオの会（博士（地球環境学））

【お問い合わせ先】

広島大学総合博物館 清水則雄、両生類研究センター 三浦郁夫

Tel : 082-424-4212 FAX : 082-424-4263

E-mail : norios@hiroshima-u.ac.jp

発信枚数：A4版 3枚（本票含む）



〇オオサンショウウオ保全対策プロジェクト研究センター

《研究組織及び構成メンバー》

センター長：清水則雄 総合博物館准教授（動物生態学）
研 究 員：三浦郁夫 両生類研究センター准教授（基礎生物学、進化遺伝学）
浅野敏久 人間社会科学研究科教授（人文地理学、環境社会学）
池田誠慈 総合博物館契約技術職員
客員研究員：桑原一司 日本オオサンショウウオの会 前会長（博士（学術））
田口勇輝 日本オオサンショウウオの会（博士（地球環境学））
山崎大海 本学生物圏科学研究科卒業生
協力：ランデス株式会社

《今後の計画》

〇1.広島県および全国における交雑種の分布状況の把握

広島市と協力して八幡川の交雑種の実態調査を進めます。また、全国から交雑種の確認依頼があれば、当センターでも DNA 鑑定（有料：実費負担）を実施します。

〇2.DNA 鑑定の効率的手法の開発

交雑種の判定にはマイクロサテライトという手法を用いますが、シーケンサーという機器の使用が必要であり、その費用が高額で、時間も要しました。ミトコンドリア DNA を用いた母系の起源の調査も同様でした。

そこで我々は、同様の精度で安価に迅速な方法を考案し、ほぼ完成しています。解析には 1 日で上記の二つの結果とさらに DNA による雌雄の識別も可能です。

したがって、今後、市町村からの判定の依頼を受け、迅速に、安価な費用で結果をお知らせすることができます。これにより交雑に関する状況を速やかに、確実に把握し、地域での迅速な対応が可能になります。現在、解析の更なる高速化にも挑んでいます。

〇3.環境 DNA による交雑種の確認手法の開発

環境 DNA は、生物が生息する環境から粘液や糞などに含まれる DNA 情報を読み取り生息する生物を裏付ける手法です。現状では交雑種を確認できる方法が確立されていませんので、新たに本手法の開発を目指します。本手法が確率されれば、河川水のサンプリングだけで交雑種のより広範な分布状況を確認することが可能となり、調査の大幅な効率化が期待されます。

〇4.在来種個体群の分断を解決する遡上路的設計、社会実装

在来のおおサンショウウオは堰堤によって個体群が分断され、繁殖に参加できない個体が発生しています。また、豪雨によって流出した個体が元の生息地に戻れないなどの喫緊の課題があります。本課題解決のためには遡上路が必要です。河川や堰堤の形状に合わせた遡上路的設計、水利権者の皆様との合意形成、社会実装を目指します。遡上路等の設計・施工実績のあるランデス株式会社の協力を得て、本年度内にモデル遡上路 1 基の実装を目指します。

〇5.教育普及、保全対策の検討、社会実装

交雑種の保護・隔離、遡上路の設置には、国民の皆様のご理解とご協力が欠かせません。本年度は、小中学生への出前授業（5/28, 6/1, 6/9, 11/12）、市民向け公開講座（8/19）、各種講演会（6/22, 10/14, 12/16）等で幅広く情報発信を予定しています。

市民向け公開講座（8/19）は本学の公開講座ですので、是非ご参加下さい。

上述の取り組みを通じて、総合的な保全対策を検討し、その社会実装を目指します。皆様のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

(別紙)

【FAX返信用紙】

FAX：082-424-6040

広島大学 広報室 行

記者説明会（5月1日（月）11時開始・きてみんさいラボ）のご案内

オオサンショウウオ保全対策プロジェクト研究センターを
設立し、総合的な保全対策に取り組みます

日 時：令和5年5月1日（月）11時～12時

場 所：広島大学きてみんさいラボ

（広島市南区松原町 2-62/広島駅南口 広島 JP ビル 2 階）

☐ ご出席

☐ ご欠席

貴社名：_____

部署名：_____

ご芳名：_____

電話番号：_____

※ 誠に恐れ入りますが、取材いただける場合には、上記にご記入頂き、4月28日（金）15時までにご連絡ください。